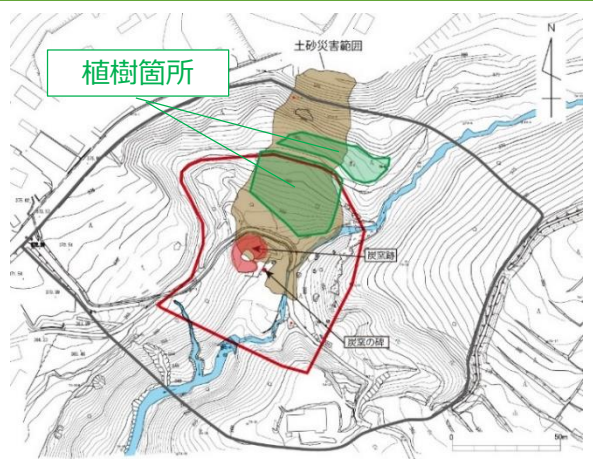


世界遺産 寺山の森再生プロジェクト

「世界遺産 寺山の森再生プロジェクト」は、令和元年7月の大雨に伴う土砂崩れによって被災した「どんぐりの森」を、環境や地域生態系に配慮した方法で再生させる取組です。

【概要】

- 樹種
シイ、カシ、マテバシイ、タブほか
☞植生調査に基づき26種の苗木を植樹予定
- 樹種量 **※多種混合**
対象面積：1,685㎡（斜面上部472㎡、
斜面下部1,213㎡）
本数：約5,100本（3本/㎡） **※密植**
- 実施スケジュール
 - ・ R3年度 種子採取・播種
 - ・ R4年度 育苗（～R6年度）
植樹（斜面上部1,500本程度）
 - ・ R7年度 植樹（斜面下部3,600本程度）



【背景】

- 150年前は里山の中にどんぐりの森が広がる
☞今も豊かな自然が残り国立公園に指定
- 薩摩藩主島津斉彬が炭窯設置を命じる
☞集成館事業の燃料で大量の白炭が必要
- 2015年7月世界文化遺産に登録
☞「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つ
- 2019年7月記録的な大雨
☞土砂崩れで炭窯の一部や斜面地が崩壊

【推進体制】

- 市、地元小・中学校、地元町内会、関係機関など

【取組・効果】

【目指す姿】 景観の再生

寺山炭窯が建設された当時（安政5(1858)年）の、白炭の原料となるマテバシイ等が生い茂るどんぐりの森

体験・体感

- 寺山周辺の種子の採取・育苗・植樹体験
- 森の管理体験（中長期的なイメージ）
- 木炭制作体験（長期的なイメージ）



知る・学ぶ

- 寺山の森を知る
- 斉彬が目指したものを知る（炭窯の碑）
- 災害（土砂崩れ）の発生メカニズムを知る



【効果】

- 地域の文化財や自然に対する愛着の醸成
- 地球温暖化・気候変動に対する理解の深化
- 防災意識の啓発



SDGs (持続可能な開発目標)の推進

